



第3学年 道徳ではこんな学習をします

道徳教育は

人間が本来もっている「よりよく生きたい」という願いや「よりよい生き方を求め実践する人間」の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。小学校では、人間としてよりよく生きるために共通の心構えや行動の仕方をさまざまな体験や学習を通して学びます。基本的な生活習慣やルール・モラルの指導をしたり自然体験活動やボランティア活動などの体験活動をしたりして道徳性の育成を図っていきます。

道徳性とは

人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものです。人間が人間として共によりよく生きていく上で最も大切にしなければならないものです。

道徳教育の評価

道徳教育における評価は、児童の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し勇気づける働きをもつものです。観察や面接、質問紙、作文などを利用して道徳性の共感的理解に努め、その結果を指導に生かすようにしています。道徳の時間に関しては、数値などによる評価は行いません。

学校では

道徳教育の目標、道徳の時間の目標に基づいて道徳教育の全体計画と年間指導計画を作成しています。

さらに、学級では、学級における指導計画を作成するなどして道徳教育の充実に努めています。

また、道徳教育の指導にあたって、教師と児童の信頼関係及び児童相互の人間関係を深めたり、家庭や地域社会と連携したりして道徳的実践の充実に努めています。

道徳の時間は

1. 自分自身に関すること

- (1) 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をする。
- (2) よく考え行動し、過ちは素直に改める。
- (3) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。
- (4) 正しいと思うことは、勇気をもって行う。
- (5) 正直に、明るく元気で生活する。

2. 人とのかかわりに関すること

- (1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。
- (2) 相手のことを思いやり、親切にする。
- (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
- (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。

3. 自然や崇高なものとかかわりに関すること

- (1) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。
- (2) 命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
- (3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。

4. 集団や社会とかかわりに関すること

- (1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。
- (2) 働くことの大切さを知り、進んで働く。
- (3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなて協力し合って楽しい家庭をつくる。
- (4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなて協力し合って楽しい学級をつくる。
- (5) 郷土の文化と伝統を大切に、郷土を愛する心をもつ。
- (6) わが国の文化と伝統に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

学校ではこれらの内容を全体にわたって指導しますが、児童や学校・学級の実態、特色などを考慮して、さらに重点的に指導していきます。